

実践報告

# クリッカーを用いた情報モラル授業の実践 —多教科にわたる実践—

陣内 誠\* ・ 挽地 貞夫\*\* ・ 古川 卓\*\*\* ・ 角 和博\*\*\*\*

Practice of the Internet Moral Class Using CLICKER:  
Practice over Multiple Subjects

Makoto JINNAI\*, Sadao HIKICHI\*\*,  
Takashi FURUKAWA\*\*\* and Kazuhiro SUMI\*\*\*\*

## 【要約】

小・中学校において多教科でクリッカーを用いた情報モラルの授業を実践したので、その実践を報告する。

## 【キーワード】

情報モラル, 小学校, 中学校, クリッカー, 多教科

## 1 クリッカーを使用した授業

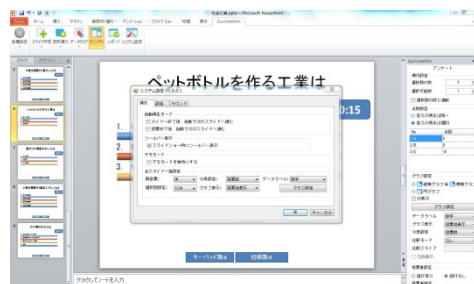
情報化社会の進展に伴い、学校教育における情報モラル教育の充実が叫ばれて久しい。しかしながら実際は講演会の実施や特設授業を年数回行ってお茶を濁しているのが現状と言わざるを得ない。自分自身の実践を振り返っても講義形式の授業に留まっており、児童が積極的に授業に参加しているとは言い難いという反省があった。

そこで今回、児童が積極的に情報モラル授業に参加することを目的にクリッカーを使用した授業を実践した。今回使用したクリッカーは、佐賀市に本社を置く木村情報技術株式会社が販売しているSunVote mini【図1】を使用した。佐賀大学にも導入されているSunVoteの廉価版で、1~6(A~F)までの数字ボタンと「OK」ボタン計7ボタンを有するものである。本機材は、集計をパワーポイントのアドインを利用して行うので、電子黒板との親和性も高く電子黒板を導入している学校では大変利用しやすいものとなっている。設定【図2】も簡単で誰でも資料を作成することができる。

クリッカーを使用することにより、児童は意欲的に授業に参加するのではないかと考えて授業を実践した。



【図1 SunVote mini】



【図2 設定画面】

## 2 小学5年生国語科における情報モラル授業指導案

### 1) 単元名

意味をそえる言葉に目を向けよう（副助詞の取り扱い）

### 2) 単元とその指導について

- 我々の日常生活の中には、言葉によるコミュニケーション齟齬の発生する場面がしばしばある。発言や表現が真意と違う受け止め方をされたり、言葉によって他者を傷つけてしまったりする原因の多くは、語句の選択や解釈の誤謬であるといっても過言ではない。特に情報化社会の進展により、文字によるコミュニケーションが頻繁に行われている現代においては、言葉の使い方に関する正確な知識と技能が要求されているといえる。  
本単元の重点指導事項は、学習指導要領における伝国(1)イ(カ)「語感、言葉の使い方に対する感覚などに関心を持つこと。」である。本単元では、副助詞を扱うが、副助詞は語句について様々な意味を添える働きをしており、これにより表現に伝達者の微妙な感情が添えられることになる。表現を受け止める側は、副助詞に込められた思いや感情を正確に理解しようとする態度と技能が必要となる。本単元の学習は、場に応じた語の選択という観点では、6年「場面に応じた言葉を使おう」の学習に繋がっている。
- 本単元における情報モラルの視点としては、前述のとおり正確な伝達を心掛ける態度を身につけさせることにより、文字伝達におけるコミュニケーション齟齬を避ける技術を体得させることである。本時のみで身につく技能ではないが、児童が自分の言語活動を見直す機会としたいと考えている。
- 本学級の児童は《「①妹は、本ばかり読んでいる。②妹は、本だけ読んでいる。」2つの文に意味の違いはあるか?》という事前アンケートで、35名中11名が「同じ」と答えており、言葉の細かな表現に気を配るほどの言語生活を送っているとはいにくい現状にあることがわかる。今後、情報端末を使用してコミュニケーションを行うであろう将来のことを考えれば「語感、言葉の使い方に対する感覚などに関心を持つこと。」は、本学級の児童にとっても喫緊の課題となっているといえる。
- 本学習をきっかけとして、児童が副助詞の存在や重要性に気づき、表現者の意図を正確に受け止め、自分の意図を正確に伝えるための言葉を的確に選択する言語感覚を身につけさせるとともに日常生活の中で有効に働く力となることを狙いたい。そのためにもクリッカー（SunVote mini）を使用して個々の学習記録を残すことにより評価と事後指導に繋がりたい。

### 3) 単元の目標

- ・副助詞によって表れる文の意味合いをとらえることができる  
(国語：伝統的な言語文化と国語の特徴に関する事項(1)イ(カ))

### 4) 指導計画（2時間）

- ・副助詞について知り、その働きを理解することができる。
- ・それぞれの副助詞が文にどのような意味を添えているか考え、適切な語を選ぶことができる。  
(本時 2/2)

5) 本時の計画 (2/2)

i) 目標

○それぞれの副助詞が文にどのような意味を添えているか考え、適切な語を選ぶことができる。

(国語：伝統的な言語文化と国語の特徴に関する事項(1)イ(カ))

ii) 展開

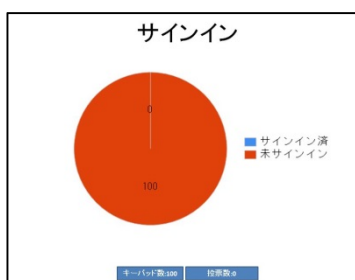
| 学習活動  | 指導・支援 (○) と形成的評価 (◆)   | 備考              |
|---|--|-----------------|
| 1. 前時の学習を振り返る。<br>2. 本時のめあてをつかむ。                            | ○「が」「も」「しか」の例文を踏まえ、本時は更に多くの副助詞について学習することを伝える。  | ★ IWB           |
| いろいろな「意味をそえる言葉」の働きを考え、使えるようになろう。                            |  |                 |
| 3. 例文の「も」と「しか」を比べて、それぞれの言葉がそえる意味について考える。<br>・一人調べ<br>・ペアつぼみ | ○副助詞を用いた表現者の意図や期待について、考えさせる。<br>◆ペアつぼみの観察【話す聞く活動】<br>A：意味の違いについて自分の意見を積極的に述べている。<br>B：反応しながら相手の意見を聞くことができている。<br>→副助詞を使わない文を並べて考えさせる。<br>◇タイマーを表示し、時間を意識させる。 | ★ IWB           |
| 4. 練習題に取り組み、様々な副助詞が添える意味について考える。<br>・みんなでつぼみ                | ○練習題を行うことを通して、副助詞の働きについて理解を深めさせる。<br>◇練習題を行う前に、これまでまとめたことを再確認した後、クリッカーで意見を集約する。  | ★ IWB<br>★クリッカー |
|   | ◆クリッカーの集計結果<br>【言語についての知識・理解・技能】<br>A：意味の違いについて全て理解できている。<br>B：意味の違いについておおむね理解できている。<br>→副助詞を使わない文を並べて考えさせる。   | ★ IWB           |
| 5. 本時のまとめをする。   | ○これまでに書いた文書を読み返し、気持ちにあった副助詞をつかっているか見直したり、副助詞を付け加えると効果的な個所がないか考えたりさせる。  | 過去の作文           |
| 6. 学習の振り返りをする。  | ○学習を通じて分かったことや友達の考えの良さについて数名に発表させ称賛する。   |                 |

◇個に応じた児童への支援 (UD)    ★ICT機器活用    ※IWB…電子黒板

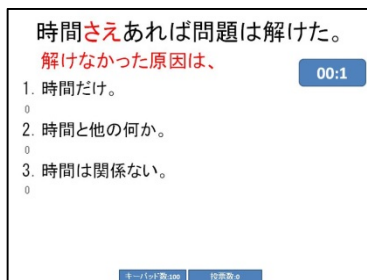
## 6) アンケート画面と参加意欲に関する考察

今回の授業は情報モラルの観点から、ほんのちょっとした言いまわしの違いによって意味が変わってしまうことを意識させることに重点を置いて授業を構成した。

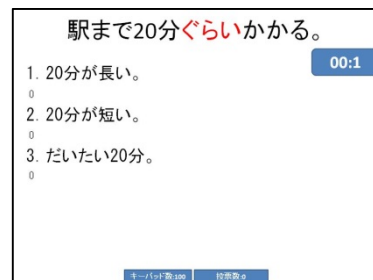
授業で使用したPowerpoint画面の概要は【図3】～【図5】で示したとおりである。アンケート中は、設定された制限時間のカウントダウンと共に音楽が鳴り、雰囲気を盛り上げる。これと同時に画面下部に名簿が表示され、投票行動が正常に終了していることを第3者（この場合は教師）に示すことができる。このため児童は積極的に投票（意見の表明）を行うようになった。単純に挙手をするだけでは得られにくい参画意識を持たせることができたといえる。



【図3】



【図4】

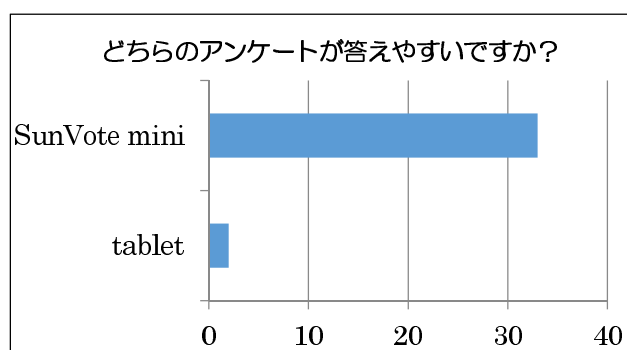


【図5】

また小城市で使用しているタブレットには、学習支援ソフトがインストールされていて、このソフトを利用したアンケートが実施できる。SunVote miniが導入されるまでは、このアンケートを利用していたが、SunVote miniとタブレットどちらが答えやすいかを聞いた結果が【表1】である。SunVote miniの目新しさもあり、SunVote miniが答えやすいと回答した者が圧倒的多数を占めた。

アンケート実施中の音楽、制限時間の表示や結果がすぐ見える（タブレットの場合、集計作業を経て結果を手動で表示させなければならないが、SunVote miniでは、アンケート中の表示や制限時間終了後即座など選択可能）ので参加意欲の向上につながったと考えられる。

【表1】



## 3 中学校生徒会活動における実践

### 1) 鳥栖市中学校生徒会執行部合同研修会

2016年11月、鳥栖市文化会館にて「とすフェス文化セミナー」の一環イベントとして鳥栖市内中学校生徒会執行部合同研修会が開催された。その研修会の中で情報モラルについての講義を行ってほしいとの依頼を受けた。その際、単純な講義形式よりもワークショップ形式での講義を行ってほしいと教育委員会から希望が伝えられたので、本講義ではSunVote miniを使用することとした。また、鳥栖市内3中学校（鳥栖には4中学校が存在するが、1校は学校行事の都合で欠席）の執行部45名が参加とのことだったので、所持しているSunVote miniの回答端末数を超えていた。これを補うために、回答端末を3人グループに1台とし、グループの意見として回答してもらうこととした。そして回答後、集

計結果を見ながら全体討議を行った後、解説を加えた。

この形式だと、自分の意見がグループ内で少数であっても全体では多数派を占めることがあるという経験に繋がった。逆もまたありで、この活動を通じて自分の意見や価値観を見直す機会を与えることができたと考える。

ワークショップの基本的な流れ：【話題提示→小グループ討議→回答→全体討議→解説】

## 2) 研修会トピックについて

今回の講義では、

- ①携帯所持アンケート
- ②P P A Pの世界的ヒットに見る6次の隔たりアンケート
- ③熊本地震における長谷川君のツイートに関する印象アンケート
- ④ツイートを例示しての意識アンケート
- ⑤例文の解釈についてのアンケート
- ⑥言われて嫌な言葉に関するアンケート

以上、6トピックを扱った。

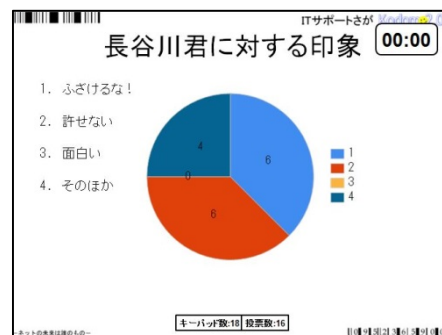
①に関しては、参加者全員がSunVote miniに触れる機会を作るために3回実施した。SunVote miniの音楽とカウントダウンが参加意欲を高めている様子が見て取れた。

②は、当時世界的に大流行中の「P P A P」を題材にインターネットの拡散性について扱った。

③では、【図6】の成りすましツイートによる世論操作が、善意によるネットリンチを引き起こす過程を疑似体験し【図7】、冷静な判断の重要性について考えた。



【図6】

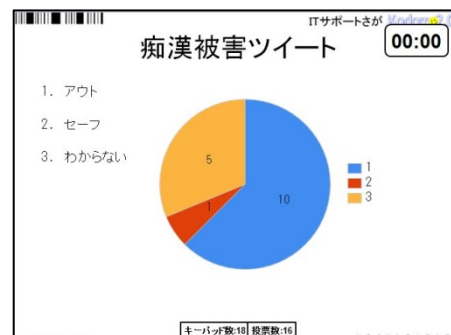


【図7】

④では、具体的なツイートを例示し討議を重ねることにより、安易な情報発信に関する注意喚起と情報発信による個人情報の流出を取り扱った。【図8】【図9】



【図8】



【図9】

⑤では、「なんで来っと?」「ライト兄弟は何人?」という問いへの回答をグループ討議することにより、文字によるコミュニケーション齟齬の体験を行い、文字によるコミュニケーション(SNS等)の危うさを取り扱った。

⑥はLINE株式会社が提供している「LINEワークショップ」の一部を利用して、グループ討議の結果を全体で再度取り扱うことにより、【自分の当たり前】が必ずしも【みんなの当たり前】ではないことを体験した。グループ討議さえも全体の意見とは違うことが体感できたと考える。このことは、LINE内の合意形成の結果が常識ではないことを再認識する機会となったと言える。

なお⑥の実施に当たっては、LINE株式会社の了解を得て行っていることを申し添えたい。

#### 4 小学校社会科・道徳における実践

この他に小学校5年社会科「Ⅲ 暮らしを支える情報 3 情報化社会に生きる」(東京書籍)や道徳「相手に思いを伝えたはずなのに」(「私たちの道徳」小学校五・六年 文部科学省)などでSunVote miniを利用して、授業を実践した。

社会科の実践では、討論後の回答ではなく、問題に対する個人の考えをアンケート集計して、正解を示す資料を探すきっかけとして利用した。また、道徳においては昨年度の佐賀大学実践報告で報告した事例にSunVote miniを使用することにより、積極的な児童参加を促すことができた。

#### 5 まとめに代えて、教員のクリッカーに対する感想

ここでは、クリッカーを使用した授業を参観したり、クリッカーに関する研修を受けたりした牛津小学校教員の代表的な感想を列記する。

- ・タブレットのアンケートよりも子どもたちの意欲が高まっていた。
- ・音と光の刺激が参加意欲をそそる。
- ・トラブル対応に不安があるものの授業で使用してみたい。
- ・教師側の慣れが必要。
- ・タブレットは起動、操作、回答などの子どもの作業や負担が多い。クリッカーは子どもの作業が単純なので、低学年でも使いやすい。
- ・機器を使用することが主目的にならないようにしなければならない。教師も子どもも機器に慣れ親しんで、特別なものにならないようにする必要がある。

ICT機器など新しいツールは、児童生徒の興味関心を惹起し授業参加への意欲を高めるが、それを使うことが主目的にならないよう工夫することが肝要という意見が大半を占めた。一方でトラブル対応への不安を挙げる意見も多く、サポート体制の充実も必要である。

#### <参考>

- 木村情報技術株式会社 <https://www.k-idea.jp/sunvote/>  
 東京書籍 <https://www.tokyo-shoseki.co.jp/textbook/e/3/414/>  
 文部科学省 [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/doutoku/detail/1303863.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/doutoku/detail/1303863.htm)  
 LINE株式会社 <https://line.me/safety/ja/workshop.html>  
 佐賀大学教育実践研究 第33号